

「私の第一声②」

今回からしばらく、初心に帰って、脳卒中で中断していた不定期コラムNo.1の続き、「私の第一声」として、私自身の生い立ちを、学校との関わりを中心に書きたいと思います。

【不定期コラムNo.1の概略】

鹿児島出身の母と堺出身の父がお見合いで結婚し、貝塚の病院で私は生まれました。熊取の第五保育所で6歳まで育ち、年長さんから堺市赤坂台に転居。小学校でのいじめの体験と中学校で出会った友達に救われた経験から、中学時代の仲間づくりがその後の人生を決めることもあると確信しています。ですから、私は、現在お預かりしている中学校の大切な3年間をのびのび学んでもらうために、校長としてできることはどんなことでもしたいと考えています。

【中学時代のこと】

中学時代から英語が苦手でした。原因ははっきりしていて、単語を覚えるのが大嫌い。英文は全て、解読できない暗号文のように見えていました。

好きだったのは理科で、中1担任の竹村先生が教えてくれました。当時人気だった「アリス」というバンドの前座をつとめたことがあるのが自慢の若い男性の先生でした。今でもはっきり覚えているのは「典子は今」というサリドマイド病患者の半生を描いた本人主演の映画を、おそらく人権学習の一環だと思いますが、学校の体育館で視聴したことです。その後、映画のテーマソングをクラスのテーマ曲にし、ことあるごとに竹村先生のギターに合わせてクラスみんなで歌ったのです。

思い出すままに2番の歌詞を書いてみます。「いつかはやってくるみんなの心に 涙と悲しみが手を取り合って それでも信じるのは明日の自分だ 一人ひとりが持つあこがれの始まり 友達 愛の形 それぞれ一人ひとり 互いに手を取り合い 明日を待っている」間違えていたらすみません。うろ覚えですが、まだ歌えます。びっくり。熱い先生で、いじめられていた子のイメージを変えるためだと思うのですが、その子の習っているお琴の演奏会がクラスで開かれました。その子が和服で演奏していたことも憶えています。40年近く前の出来事

なのに、映画や歌、取組みの様子をまざまざと思い出せます。学校活動の影響の大きさを実感します。

竹村先生を「必ず弱い立場の子の味方になってくれる」先生だと信じてきたことも、自分がいじめを乗り越えることができた理由の1つでした。生徒にとって「この先生は、自分の味方になってくれる」と信じて出来る先生が1人いることは、本当に大切なことなのですが、今の立場になり、教員が生徒1人の信頼を得るということは、実は本当に難しいことなのだ痛感しています。何とか信頼していただけるよう、頑張っ学校づくりを進めていきます。

2年の担任は体育の浪花先生。先生の明るさは私を前向きな性格にしてくれました。3年の担任は美術の芳村先生。先生は私の個性を認めてくれて、私を美術好きにしてくれました。

3年間サッカー部に所属しましたが、運動は得意ではなく、リフティングもろくにできない補欠選手でした。最初は人数の多いクラブでしたが、クラブ内のもめ事が絶えずあり、どんどんやめていく中、最後までやめなかったことだけが自慢だったのですが、今から考えれば、途中で股関節の脱臼などで自分も休んでいることが多く、もめ事に巻き込まれなかっただけなのでした。

不定期コラムNo.1で触れたようにいじめは、友達との出会いのおかげで乗り越えることができたのですが、そこから、成績が上がり始めました。理科と美術は、先生のおかげで好きになりました。国語は、本好きになった(次号参照)ことでだんだん得意になり、三国志や宮本武蔵などの小説を読むことで歴史が好きになったり自分の特性を自覚することで自分なりの暗記方法を見つけて社会が嫌いではなくなりました。数学は普通、英語は最後まで大嫌いでした。今から考えれば、もったいないことをしたなあと思います。結局、英語嫌いが響いて、第1志望の公立高校は受験さえできませんでした(涙)。

【不定期コラムNo.11】へつづく

第三中学校ホームページでは、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

